

支援が必要な子どもたちとのアート活動

川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科

尾崎公彦



1. あらゆる子どもとアート活動

みなさん、初めまして。倉敷市にある川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科の尾崎公彦と申します。8月のメールマガジンの担当をさせていただきます。よろしくお願い致します。

2018年から月に一回、足掛け5年間取り組んでいる児童発達支援センターでのアート活動について紹介させていただきます。この活動が始まるきっかけは、施設に勤務する卒業生から幼稚園や保育園でやっている造形表現活動を経験させたい。力を貸してもらえないかとの依頼があり始まりました。卒業生は、新卒ですぐに児童発達支援センターに入所しており、健常児の保育・教育についてどうすれば良いのか、表現活動も環境構成や取り組む内容について、分からないとの言葉も聞かれました。

当初、施設からのオーダーは、

- ・季節に応じた活動をさせたい。
- ・作品展示をしたい。職員が違う視点を学びたい。
- ・幼稚園や保育園でやっている造形表現活動を経験させたい。

と言うものでした。以前のアートの活動は、モチーフを見て描く活動が主だった様子で、その反省もあり、私に声が掛かった様子でした。児童発達支援センターは皆さんもご存知のように、何らかの障がいや遅れのある子どもたちが通う施設です。健常児と異なり、発達の遅れや身体的な障がいもあります。施設ではリハビリや機能訓練に取り組んでいます。日常生活においては、子どもたちなりに少し我慢をしたり、少し気を遣ったりし彼ら彼女らなりに日々頑張っています。アート活動を通じて、形や色について理解が深まり、材料や用具の扱い方も習得するのは勿論ですが、楽しく取り組み達成感や充実感を持ち、子どもたちが抱える日々のストレスの軽減にも寄与できればと思っています。

2. アート活動の概要

アート活動は月に1回あり、午前10時から午前11時までの一時間に2クラス分の子ども約15名が参加する日と、別日に午前10時から午前11時までの一時間と午後1時から2時までの一時間で、3クラス分

の子ども約30名が参加する日があります。2日で約45名が参加の活動となります。4名から6名で活動をスタートし、入れ替わりながらの活動となります。一人の活動時間は平均20分から30分。長い子どもで45分から50分集中して取り組んでいます。

遊びの要素を取り入れ、造形活動を通じて、**自分で考え、自分で判断できる経験**をすることを中心におき、年次更新を重ね2023年版年間計画(図1)を考えました。描くことの経験、筆を使うことの経験、色を楽しむ経験、紙を切る経験、紙を貼る経験、シールを貼ったり、テープを貼ったりする経験。仕上げに全ての経験を活用する内容を設定しました。とは言え、皆さんもご存知の通り、子どもの活動は大人の想像の斜め上を軽く超えていきます。それにも増して、支援が必要な子どもたち。何が起ころうとも想定内と考え、環境構成と準備をしっかりと行うことが私の仕事。職員方には、危険なこと以外は活動中には規制をかけず、**一緒に楽しむこと**をお願いしました。

2023 アート活動計画書 <small>えがく つくる</small>						
季節に応じた活動をさせたい。違う視点を学びたい。作品は展示したい。ボディペインティング、フィンガーペインティング、泥遊び、泡あそび。片栗粉粘土経験あり。幼稚園・保育園でやっていることは経験させたい。						
*実際は非日常的な活動を通じて(遊びの要素を入れた)、自分で考え、自分で判断できるような経験をする。						
AM9:45~10:45 年少・年中 混合2クラス S・A・B	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	お花紙であそぼう!	はじき絵を楽しもう!	はじき絵を楽しもう!	不思議な魚 絵の具やシールなどを使用して描いてみよう!	えがいてあそぼう!	えがいてあそぼう!
	アイスブレイク。大量のお花がみを用いて遊ぶ。色に溢れた非日常空間を楽しみ、そこから遊びを展開させる。	クレパスで描くを行い、6月に水彩絵の具を使ってはじき絵を楽しむ。	三原色を使用してはじき絵を楽しむ。絵の具に親しみ、筆の使い方を楽しみながら行う。	魚の形に切った紙からお花のイメージを膨らませ、見たこともない不思議な魚を作ってみよう!楽しみながら、筆を使用して描く事絵も楽しむ!	ボディペインティングで描くことを楽しもう!描いた模様を転写版画で写し取ります。	「さまざまな形にちぎった紙」を使用して、イメージを膨らませて色んな線を描いてみよう!
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	えがいてあそぼう!	はんこあそび!	えがいてあそぼう!	つくってあそぼう!	つくってあそぼう!	つくってあそぼう!
	「さまざまな形に切った紙」を使用して、イメージを膨らませて色んな線を描いてみよう!	身近なものを使用してはんこあそびをしてみよう!	パステルを使用し、線描きや面描き、ぼかしなど描画材が持つ特性を楽しむ。	「自分を讀めるトロフィーを作ろう!」紙筒を使用して、様々な材料からイメージを膨らませて小学校に入る気持ちを表現してみよう!	紙皿・紙コップを使用して、工作してみよう!	「夢ラーメンをつくる!」紙の丼を用意し、様々な材料からイメージを膨らませて、世界に一つだけのラーメンを作ろう!

『個人持ちもの』
・クレヨン
・水性ペン80
・はさみ
・水のり

(図1)

では主な活動を紹介します。

4月 アイスブレイク「お花紙であそぼう!」

アート活動新年度第1回目として、子どもたちの概念崩しを兼ねて、お花紙を使って部屋いっぱい広げて楽しみ、普段ではできない活動を思い切り楽しみ、**何をやっても怒られなよ!大丈夫だよ!**と思ってもらえ、これから始まる活動への**ワクワク感を高める**ことを目標に内容を設定しました。2018年から2020年までのアイスブレイク活動は、色とりどりの紙テープを使用して、非日常空間を楽しんでいましたが、紙埃も多く出て、紙テープで手を切る子どもが出てしまいせっかくの楽しい時間も一瞬で氷つく状況が生

じる事がありました。その問題解決として2021年からはお花紙5000枚を使用し、安全性と衛生面もクリアした活動となりました。今年はコロナ禍も落ち着いたので、本学科の4年生も同じ活動を行いました。学生からは入学して一番楽しい活動との声も聞かれました。学生の心も開放する活動になっていたようです。

4月のアート活動

お花紙で遊ぼう！

アート活動第1回目 アイスブレイクな活動として！

1. 活動のねらい 第1回目として、いたずら心を発揮して、お花紙を部屋いっぱいに広げて、非日常空間を作り出し、心を解放してこれから始まるアート活動に期待を持ってもらう。活動を通じて自分で考え、判断し、行動することを経験する。その過程で達成感や工夫して取り組むことの楽しさを味わう。

2. 対象年齢 年中・年長混合クラス

3. 準備するもの お花紙500枚組10色 透明なネギ用のポリ袋、蓋つきパフェ容器。

4. 活動の流れ

① はじまり



5000枚のお花紙を用意。心を解放して取り組める様に自由に伸び伸びと活動できる様に。

② 遊んでみよう！



体全体を使用して。

③ 遊んでみよう！



容器を使用して！

④ 遊んでみよう！



透明なポリ袋にお花紙を入れ、綺麗な不思議棒を作ったり。

5. 活動の留意点 活動に規制を設けず、伸び伸びと自由に活動をおこなう様に援助する。

6月 はじき絵を楽しもう！

5月に行ったクレパスで描こう！を基に、6月は絵の具と筆の扱い方を習得することを目的に設定しました。広汎性発達障害児の特徴として、絵の具を使用した活動は、こだわりを持って行動することが顕著にみられます。この机では、3人仲良く座って、絵の具を使用しています。示し合わせたようにそれぞれが赤、青、黄色を使用しています（図2）。彼らなりに主体的に行動し、画面全体に想いをぶつけている様子が見て取れました。その活動を受容し、納得するまで取り組むことを支援します。20分ほど集中し、クレパスで描いた線が見えなくなるほど、頑張ってやり抜きました（図3）。黄色担当の彼は、また新たに描き始めました。どこまでの効果があるかは分かりませんが、新聞の文字に気を奪われる事の無いように養生には、英字新聞を使用しています。



(図2)



(图3)

6月のアート活動

はじき絵を楽しもう！

クレヨン・クレパスで描いた大きな紙ではじき絵を楽しもう！

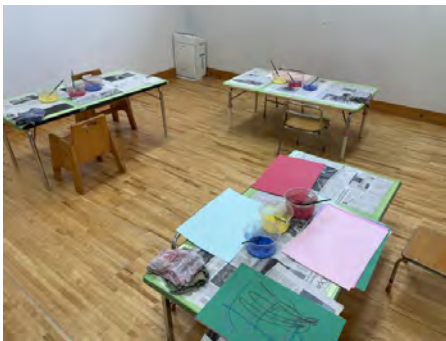
- 1. 活動のねらい** 5月に制作したクレパス・クレヨンで描いた紙に、
絵の具を使ったはじき絵の活動へと展開する。
絵の具は三原色を用意し、混色の実験も経験する。
絵の具の使い方全体を使用した、筆の使い方を経験する。

2. 対象年齢 年中・年長混合クラス

3. 準備するもの 色画用紙（前回描いたもの） 絵の具（三原色） 筆各種 透明な容器
新聞紙

4. 活動の流れ

①はじまり



絵の具は三原色を用意。

②三原色の絵の具で描く！



筆を使用し絵の具で描くことの楽しさを経験。

③身体を大きく使う筆使いを経験！



筆を使用し、遊びを通じてその使い方を
習得する。

④紙の上で色の混色を実験！



画面上での色の混色から、色について多くの
事を学ぶ事を期待。

5. 活動の留意点

活動内容は説明するが、子どもがやりたい様に活動を支援する。

ここでの活動は個別支援、個別対応が基本となり、一人一人の想いを汲み取り、可能な限り対応するよう
にしています。

・たくさん枚数を描きたい子ども

- ・紙に穴が開くまで筆を動かす子ども
- ・今日は描きたくない子ども

などその日の状況により、それぞれの思いがストレートに表現されます。

2018年から足掛け6年取り組んでいますが、試行錯誤の連続で子ども達から学ぶことばかりです。こちらの思い込みや常識がいかに無力であることかを思い知らされます。アート活動では、**普段見せない生き生きとした表情**や静かに座ることができない子どもが、**集中して取り組む姿**を見ることができ、日常的に接している施設の保育者が驚くようなことが起きます。このアート活動を通じて、**子どもたちの可能性**を再確認できる良い機会にもなっているようです。

このアート活動が、**子ども達にとって自分を大切に感じられる時間、自分の思い通りになる時間、また次もやってみたいと思える時間になるよう**に取り組んでいきたいと思っています。その為には施設の職員との連携と共に**子どもたちとの信頼関係を構築**することの重要性を強く感じています。とは言え、還暦間近には、些か重労働になってきました。

さて、このメルマガの発刊は8月。8月の活動は、ボディペインティングです。全身で活動を楽しんでい
ると思います。平和でこのような活動が未長く続けられることを心から祈ります。今年の夏はどんな表現が生まれてくるか今から楽しみです。